

子どもたちの世紀

秋冬号

公益財団法人 小児医学研究振興財団

2021年11月1日


**令和3年度
web市民公開講座**
**新型コロナウイルス
流行後の
子どもの健康**
**財団HPにて
公開中！**
特別寄稿
「コロナに負けるな」

 川崎医療福祉大学
 子ども医療福祉学科 特任教授
尾内 一信

2019年末に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、中国武漢で最初の症例が確認されて以降瞬く間に世界中に拡がり、人々は今も新型コロナ禍に苦しんでいる。多くの人が感染し貴い命を落とし、また発症後の後遺症に苦しんでいる人も多い。COVID-19は今までに誰も経験したことがないので、政府も社会も暗中模索の状態ですり誤りを繰り返している。昨年からの感染拡大を何度も経験したため人流抑制を目的とした緊急事態宣言の実施も度重なり、子どもを含めた社会全体への影響は計り知れない。

一方、この感染症が発見されてから1年以内に数種類の有効なワクチンが開発され接種が始まった。まさに驚くべき医学の進歩である。日本でも重症化リスクの高い高齢者から順にワクチン接種が進み、2021年9月現在国民の半数がワクチン接種を完了した。幸い子どもの重症化リスクは少ないが、COVID-19は免疫のない人を探して拡がるため、ワクチンをしていない子どもはCOVID-19の格好のターゲットになる。今後は否応なしに子どものCOVID-19にスポットライトが当たるようになる。ウイルスの特徴を考慮するとCOVID-19流行前の元の生活に戻れるように道案内できるのは、今のところワクチンだけである。ワクチンの接種対象年齢層のワクチン接種率をできるだけ上げてCOVID-19の流行をコントロールし、ワクチンの対象でない子どもを守りながら元の生活に戻れるのが望ましい。

元の生活に戻れるようにみんなで力を合わせて感染対策に務めよう。コロナに負けるな。

新型コロナウイルス流行後の子どもの健康

●主催：(公財)小児医学研究振興財団 ●共催：(公社)日本小児科学会

●後援：厚生労働省、(公社)日本医師会、(公社)日本小児科医会、(公社)日本小児保健協会、
(公社)こども環境学会、(公社)日本新生児成育医学会、(一社)小児精神神経学会、
(一社)日本外来小児科学会、(一社)日本学校保健学会、(一社)日本子ども虐待防止学会、
(一社)日本小児アレルギー学会、(一社)日本小児感染症学会、(一社)日本小児救急医学会、
(一社)日本小児神経学会、(一社)日本小児心身医学会、(一社)日本保育保健協議会、
(公財)日本学校保健会、(公財)母子衛生研究会、(社福)日本保育協会

●協賛：日本マクドナルド(株)、(株)オグラ、(株)ファイザー ●特別寄付者：松井 陽



新型コロナ禍における子どもの健康

(公財)小児医学研究振興財団常務理事 座長 奥山 眞紀子 (日本子ども虐待防止学会理事長)

新型コロナウイルス感染症(covid-19)は変異を経て、拡大をみせています。その時々で感染の様相は異なり、子どもたちへの影響も変化してきています。特にデルタ株が優位になった本年7月からの感染拡大は著しく、それまで感染がほとんど見られなかった子どもにも感染が拡大し、学校では2学期に入って分散登校やリモートでの授業が始まりました。また、学級閉鎖に至る事例もみられるようになり、ワクチンの対象になっていない子どもの養育に不安を持つ親御さんも多くなっています。感染対策もより注意が必要となっていると言ってもよいでしょう。特に慢性疾患を抱えるお子さんやそのご家族の不安は強くなっているでしょう。

一方で、コロナ禍を伝える日々の報道がもたらす不安、ソーシャルディスタンスやマスク着用といった感染対策は子ども自身にも家族にも大きなストレスとなっています。学校の先生方の感染を広めないための緊張感も増加し、疲労が蓄積されているとも聞いています。加えて、ワクチンで高齢者の死亡が減少している一方で、親御さんの世代の重症化や死亡が増え、大切な親御さんを亡くするという最も強い心理的影響を受ける喪失体験をしている子どもも出てきています。

そのような中で、希望となっているのがワクチンです。12歳以上がワクチンの対象になりました。しかし、ワクチンには副作用もあり、子どもがワクチンを打つことに不安を持っている親御さんも少なくありません。日本小児科学会では子どもと日々接する保育士や教師は優先的にワクチンを接種できるようにすべきと提言していますが、様々な理由でそのような形になっていない自治体は多いものです。

今回は、これらの不安に第一線の小児科医が最前線の知見を分かりやすく解説することを目的として、市民公開講座をオンデマンド方式でお届けすることといたしました。社会不安によって非科学的な情報が蔓延している中、正確で科学的情報が皆様のお役に立つことを期待しています。



小児における新型コロナウイルス感染症の現状と感染対策

大阪市立総合医療センター 小児救急科部長 天羽 清子

小児における新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の現状と感染対策について解説します。本講座は2021年8月20日までのデータに基づいており、今後新しい知見が出てくる可能性にご留意ください。

疫学:厚生労働省の報告では、日本国内の新規感染者数は2021年7月から急増しており、それに伴い小児(20歳未満)の患者数も増加しています。全体における小児の占める割合も現在の第5波にかけて増加傾向にあります。この第5波は従来株より感染力の強い変異株、デルタ株に置き換わったことが患者数増加に寄与しています。また、日本小児科学会のレジストリ調査によると、第5波になっても小児の約70%は家族からの感染である事に変化ありませんが、幼稚園や保育所での感染は第1～4波までよりも第5波で増加しています。しかし、保育園においては子供同士よりも保育士さんなど

周囲の成人から小児が感染している率が高いことは変わりません。小児の感染を防ぐため周囲の大人が感染しないことが重要です。

臨床症状:小児は成人よりも症状が乏しく、特に年少児は症状が出にくい。また、現時点までに日本国内で小児の死亡報告はありません。しかし、2歳未満と複数の基礎疾患を持つ小児は重症化することがあり注意が必要です。

治療:成人で多くの治療薬が試みられ、病態に応じた有効な治療法も確立してきました。しかし、小児に使用できる薬剤はわずかしかありません。

予防:ユニバーサルマスク(症状の有無に関わらず全ての人がマスクする事)は有効ですが、呼吸の未熟な2歳未満には奨励されていません。有効なCOVID-19ワクチンは12歳以上しか使用できないため、子供に関わる大人がワクチン接種することが重要です。また、小児においては、COVID-19以外にも重症になる感染症が多くあり、定期の予防接種を遅れずに接種し予防する必要があります。

留学体験記

スウェーデン留学記

福井大学
子どものこころの発達研究センター

特命助教 濱谷 沙世



令和元年度小児医学研究振興財団の海外留学フェローシップのご援助のおかげで、2020年11月から2021年8月まで、スウェーデンにあるLinköping UniversityのProf. Gerhard Anderssonのラボに留学させていただきました。

Prof. Gerhard Anderssonは、約20年以上前からインターネットを介して認知行動療法を提供する遠隔での治療法の開発と有効性についての研究をしておられ、現在では遠隔認知行動療法分野を国際的にリードされています。Linköping Universityでは、個室の研究室を用意していただいて、集中して研究活動に取り組むことができました。COVID-19パンデミックの影響で、わずか10ヶ月間という期間でしたが、スウェーデンで有効性が実証されている過食症のオンラ



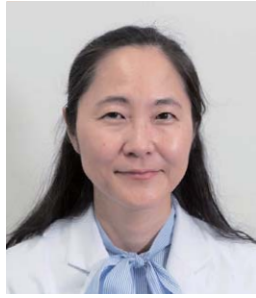
慢性疾患のこどもと新型コロナウイルス感染症

埼玉医科大学総合医療センター 小児科教授 是松 聖悟

大人に比べ、こどもは新型コロナウイルス感染症にかかりにくいこと、かかっても重症化しにくいことがわかっています。しかし、こどもでも慢性の病気を持っている場合は重症化するのでは？との懸念があるかと思いますが、確かに、新型コロナウイルス感染症にかかった場合、「慢性の肺や神経や筋肉の病気を持つこどもは重症化する傾向がある」、「重症心身障がい児は重症化する傾向がある」、「集中治療を受けるリスクのあるこどもの慢性疾患は早産児、呼吸器疾患、心疾患、肥満である」、との論文が報告され、少しずつその傾向が明らかになってきました。

こども、特に障がいがあるこどもは、上手に手を洗えません、正しくマスクができません。しかし、こどものほとんどが家族など大人からの感染です。大人がこどもに感染させないことが大切です。そのため、基本的でかつ間違いやすい感染予防策をクイズで学んでもらう予定です。また、喫煙は新型コロナウイルス感染症の重症化リスクと言われていますが、受動喫煙はこどもの呼吸器に悪影響を及ぼしますのでこどもを受動喫煙から守ってください。

さて、ぜんそく、心疾患、リウマチ性疾患など、定期薬を使っているこどもは治療を中断することなく、しっかり継続してもらいたいと思います。普段から体調を整えておくことが大切です。そして慢性の病気を持っているこどもへの予防接種は意義があると考えていますが、安全に接種できるよう、注意点もお話いたします。



子どものこころへの影響 新型コロナウイルスと共に暮らす

国立大学法人岡山大学学術研究院医歯薬学域 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児医科学 准教授 岡田 あゆみ

新型コロナウイルス感染症は、子どもたちの生活、そして心にどのような影響を与えたのでしょうか。今回は、心身医学的に新型コロナウイルス感染症がどのような「ストレス」になっているかを考えてみました。

子どもの心の問題への対応では、「準備因子」「誘発因子」「持続・増悪因子」「軽快因子（レジリエンス）」の4つの心理社会的因子への理解が重要です。新型コロナウイルス感染症は、全ての子どもに共通する経験ですが、その影響はお子さんの置かれている状況によって様々です。新型コロナウイルスは「誘発因子」に過ぎず、それまでにどのような困難さを子どもたちが抱えていたか（「準備因子」）によって経過は異なります。家庭での居場所がなく学校が支えになっていた子どもにとっては、休校やその後の活動制限は「持続・増悪因子」となりました。一方で、学校が「持続・増悪因子」だった子どもにとっては、休校やオンライン授業など学校と一定の距離をとれたことが「軽快因子」となりました。制限の多い生活に対処する中で、新しい発見や経験をすることが「軽快因子」となり、他者を思いやりたり自分の目標をみつけれたりするなど、成長していった子どももいます。

コロナと共に暮らすことは大変な経験で、子どもたちに与える影響について大人は理解と配慮をせねばなりません。しかし同時に、ストレスがすべて悪いわけではなく、これに対処することで、子どもがたくましく成長することもあるという視点を大切にしたいと思います。

我々周囲の大人が気をつけることは、主に3つです。1) 可能な範囲で、安心・安全・安定した生活を子どもたちに提供する、2) 関わる大人もストレスを感じているので、自分自身を大切にすること、3) こどものサイン（こころ・からだ・行動の症状）を認めたら、周囲に相談をする。

緊急事態宣言が延長されるなど見通しが持てず、大人も、そして社会も不安を抱えていますが、「子どもの成長する力」を信じて、一緒に困り、一緒に対処していくことができればと思います。



小児の新型コロナワクチン接種の知見と注意点

国立感染症研究所 感染症疫学センター 予防接種総括研究官 多屋 馨子

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）は、2020年3月にパンデミック状態となり、2021年8月現在、世界の累積感染者数は2億人を超え、死亡者数は428万人を超えました。デルタ株の出現で感染者数が急増し、国内の医療体制は災害級の緊急事態となっています。検査で陽性が確認された人の87.9%は成人（20代が最多で24%）ですが、小児の割合も徐々に増加傾向にあります。小児は感染しても無症状あるいは軽症のことが多いですが、基礎疾患のある小児や2歳未満では重症化のリスクがあり注意が必要です。低年齢の小児への感染源は多くが家庭内の成人で、まず小児の周りにいる成人が感染しないように心がけるとともに予防接種を受けることが大切です。

2021年2月に医療従事者等から始まった新型コロナワクチンは8月13日現在、1億800万回接種を超え、2回接種完了率は36.5%、65歳以上高齢者の2回接種完了率は83.4%に達しました。2021年6月に接種対象者が「16歳以上」から「12歳以上」に変更されましたが、12歳未満に接種可能なワクチンはありません。いずれのワクチンも2回接種から14日以降のワクチン効果は高く、変異株に対しても重症化予防、死亡予防の効果が確認されています。一方、稀ながら接種後にアナフィラキシーを発症することがあり、接種部位の疼痛、接種後の発熱、頭痛、倦怠感、関節痛、筋肉痛等の副反応の出現頻度は高いワクチンです。また、稀ながら思春期から若年成人男性において、特に2回目接種後数日で心筋炎・心膜炎を発症することがあり、胸痛や息切れ、動悸などの症状を認めた場合は、速やかに医療機関を受診する必要があります。まずはCOVID-19を発症した場合の重症度、ワクチンの効果と副反応をよく理解することが大切です。

公開講座の先生方の詳しいご略歴・所属学会等は
財団HPの市民公開講座に掲載されています。

<http://www.jfpedres.or.jp/2021.html>



イン認知行動療法プログラムに、いくつかの新しい治療モジュールを加え、子どもを含めた現代の日本人向けにアップグレードすることに從事できました。また、COVID-19パンデミックによるメンタルヘルスへの悪影響について、日本とスウェーデンの市民を対象にした国際共同研究を遂行し、約40%の人が中程度の抑うつ状態にあることや、COVID-19で後遺症がある人の場合には約2~4倍精神疾患のリスクが高まる可能性があることを発見しました（投稿中）。さらに2021年7月には、日本うつ病学会/日本認知療法・認知行動療法学会合同大会で、Prof. Gerhard Andersson (Linköping University)、清水栄司教授（千葉大学）、松本一記特任助教（金沢大学）と、「北欧のインターネット認知行動療法から考える日本の認知行

動療法全国均てん化」に関する国際シンポジウムを主催しました。

なお、私は2021年9月1日付で、福井大学子どものこころの発達研究センターに特命助教として採用していただきました。小児医学研究振興財団からの助成を得て、実施してきた研究を通して得た業績と人脈を活かし、2022年度に子どもを含めた過食症のオンライン認知行動療法の有効性を評価するための多施設ランダム化比較試験を、福井大学・千葉大学で実施するべく準備中です。今後は、日本の子どもたちのメンタルヘルスの維持向上に寄与する支援のあり方と普及に尽力していきたいと考えています。最後に、今回の貴重な機会をご支援していただきました小児医学研究振興財団にこの場をお借りして感謝申し上げます。

研究助成金

- ① 小児医学領域全般に関する研究費助成
(Research Grants for Pediatrics)
総額700万円 1件200万円以内
- ② アサヒグループ食品研究助成金(乳幼児栄養に関する研究費助成)
(Asahi Group Foods (Wakodo) Grants for child nutrition)
総額100万円 2件程度
- ③ 小児の社会医学的研究(疫学・統計含む)
(Research Grants for Social Pediatrics)
総額300万円 1件100万円以内
- ④ 学校健診・診療情報データベース利用による研究助成金
(A Grant for School Health Record/ Electronic Medical Record Database Study)
リアルワールドデータ社から研究に必要なデータセットを無償提供。
1件30万円 2件以内

海外留学
奨学金

- ① 小児医学領域全般に関する研究
総額350万円
- ② 子どもの心の問題に関する研究
1件150万円

優秀論文
アワード

日本小児科学会、
日本小児神経学会、
日本小児精神神経学会 及び
日本小児心身医学会
機関誌に掲載された原著論文のうち、
優秀論文の筆頭著者を褒賞。

※応募要項は財団ホームページにて
ご覧いただけます。



賛助会員(個人)

※敬称略 五十音順

赤司 俊二 旭 壮一郎 芦田 明 安次 馨 東 寛 足立 雄一 熱田 裕 鮎沢 衛 新垣 義夫 荒川 浩一 有賀 正 飯島 誠 飯塚 幹夫 家原 知子 五十嵐 隆 石井 アケミ 石井 尚吾 石井 正浩 石倉 健司 石崎 朝世 位田 忍 井田 孔明 井田 博幸 市橋 光 伊津見 梓 伊藤 悦朗 伊藤 秀一 伊藤 末志 伊藤 進 伊藤 辰夫 伊藤 保彦 伊藤 雄平 稲垣 治 稲垣 由子 井原 健二 井原 幸子 今井 秀人 今泉 益孝 今村 俊彦 岩田 敏力 岩田 二郎 岩内 正志 内田 祐子	宇理 厚雄 江口 尚彦 衛藤 隆 衛藤 義勝 遠藤 文夫 小穴 慎二 老田 礼子 尾内 一信 大賀 正一 大久保 美登里 大澤 真木子 大嶋 勇成 大藁 恵一 太田 和秀 太田 秀臣 大塚 晨 大西 正純 大野 耕策 大守 伊織 岡 賢 岡田 純一 岡田 満 岡田 勤 岡本 博文 小川 俊一 小川 潤 小口 学 奥山 真紀子 小栗 絢子 小坂 仁 小田 慈 小田 美知子 小野 靖彦 香美 祥二 賀川 治美 河西 紀昭 勝部 正行 加藤 康弘 加藤 剛二 加藤 達夫 加藤 均 加藤 賀藤 加藤 誠 加藤 正彦 加藤 有一	加藤 陽子 門脇 弘子 金子 一成 加納 芳郎 鴨下 敬世 川口 浩史 川又 はるみ 神崎 晋 貴田 節子 北中 幸子 北本 育子 木野 稔 木村 宏 日下 隆 楠田 聡 楠原 浩一 工藤 協志 窪田 政勝 窪田 忠俊 倉辻 繁夫 呉 尚志 桑原 建男 郡 健一 小池 晶一 小泉 ひろみ 小泉 洋子 幸山 幸治 河野 陽一 神山 潤 児玉 浩子 後藤 彰子 後藤 敦一 後藤 繁一 小林 正夫 小山 典久 小山 佳紀 尾川 太 齋藤 和由 齋藤 伸治 齋藤 博久 齋藤 進 佐伯 六雄 嵯峨 規夫 酒井	酒井 康成 坂本 由美 佐々木 弘彦 櫻井 嘉望 佐々木 望 椎谷 由里 四方 あかね 重松 陽介 柴田 瑠美子 嶋田 泉司 清水 俊明 下条 直樹 下村 国寿 白井 真美 白井 裕比湖 白川 嘉継 末延 聡一 杉浦 壽康 杉本 圭相 杉本 徹 杉本 久和 鈴木 英太郎 鈴木 孝 鈴木 敏雄 鈴木 康之 須田 憲治 須磨 亮 清野 佳紀 関 秀俊 関 進一郎 瀬島 斉 高島 俊夫 高橋 協 高橋 孝雄 高橋 勉 高橋 尚人 滝沢 琢己 滝田 順子 滝内 則夫 竹重 泰弘 竹島 健 竹谷 哲久 武知 茂子 田島 剛	橘 雅弥 田中 篤 田中 なみ 田中 浩 玉井 正徳 田村 勝一 千田 和彦 長 秀男 長 秀男 塚田 明子 辻 章志 續 晶子 堤 裕幸 鶴澤 正仁 手塚 正雄 デュブラ 尚子 寺井 勝 寺門 道之 寺田 春郎 寺田 貴英 寺井 君典 照井 拓郎 遠山 創 戸 秀文 外木 修 富沢 崇雄 永井 尚子 永尾 克俊 長澤 哲郎 中坪 希美 中西 浩一 中野 貴司 中畑 龍俊 中原 智子 中村 公俊 成田 雅美 難波 範行 新津 直樹 西久保 敏也 西澤 嘉四郎 西郷 滋 新田 康郎 根来 民子 橋口 玲子 橋本 和廣 長谷川 俊史 長谷川 泰樹	長谷川 茉莉 長谷川 美香 長谷川 行洋 羽田野 爲夫 服部 益治 服部 元史 馬場 常嘉 濱田 洋通 早川 依里子 原 寿郎 張田 豊 波呂 久美子 日暮 眞 平尾 敬男 平山 雅浩 廣瀬 伸一 廣津 卓夫 廣津 隆治 福重 淳一郎 福永 慶隆 藤井 達哉 藤枝 幹也 藤岡 雅司 藤岡 伴男 藤田 弘子 藤野 滋 藤村 匠 藤脇 建久 二村 真秀 船戸 正久 船曳 哲典 舟本 仁一 平家 俊男 別所 文雄 逸見 睦 保坂 シゲリ 星 美恵子 保科 弘毅 細井 創 細矢 光亮 堀川 玲子 堀米 仁志 前川 喜平 前多 治雄 前田 美穂 前野 泰樹	正木 拓朗 松井 智子 松尾 宣武 松尾 雅文 松尾 宗明 松平 隆光 松原 知代 真部 淳 丸山 剛志 丸山 博 三池 輝久 三浦 健一郎 水谷 修紀 水野 克己 南 志保子 南沢 享 三牧 正和 宮尾 晃也 宮城 雅也 宮島 祐 宮代 英吉 麦島 秀雄 村上 巧啓 村瀬 雄二 村田 要一 村田 華子 本村 福祥 元山 哲夫 森 浩幸 森内 友宏 森尾 直彦 森口 秀子 森下 利貞 守田 友明 森田 浩一 盛武 浩一 森脇 信一 八木 大地 安木 寛二 安田 幸重 柳川 穰 山内 穰 山内 秀雄 山形 崇倫 山川 毅 山岸 敬幸 山口 清次	山下 薫 山下 裕史 山下 亮子 山城 雄一郎 山田 恭聖 山野 恒一 山本 圭子 山本 威久 山本 玉路 山脇 英範 横田 俊一郎 横田 俊平 横谷 進	横山 茂 横山 義正 横山 哲史 吉川 康子 吉田 ゆかり 吉田 重美 脇 研自 脇口 宏 和田 和子 渡邊 信雄 横田 博 渡部 礼二
--	--	---	--	--	---	--	---	---

賛助会員(法人)

アサヒグループ食品株式会社
エーザイ株式会社
杏林製薬株式会社
Story of the tortoise株式会社
第一三共株式会社
帝人ファーマ株式会社
株式会社ナチュラルサイエンス
Meiji Seika ファルマ株式会社
医療社団法人 メディカル・プロ

協賛企業

アサヒグループ食品株式会社
アステラス製薬株式会社
株式会社オグラ
JCRファーマ株式会社
大日本住友製薬株式会社
武田薬品工業株式会社
中外製薬株式会社
日本マクドナルド株式会社
ノボルディスクファーマ株式会社
ファイザー株式会社
マルホ株式会社
リアルワールドデータ株式会社

寄付者

吉川 武志

賛助会費は、所得税控除または
税額控除を受けられます。

個人 1口/年 10,000円 法人 1口/年100,000円

ご入会・会員のご所属先変更などのご連絡は、下記で承っております。

事務局



公益財団法人 小児医学研究振興財団
JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B

TEL (03) 5818-2601 / FAX (03) 5818-2602

e-mail: shouni-iken@jfpedres.or.jp

<http://www.jfpedres.or.jp/>

編集後記

「子どもたちの世紀」について

News Letter題字の「子どもたちの世紀」は、日本小児科学会が創立
百周年を迎えた当時の厚生大臣であられた小泉純一郎先生に揮毫を
お願いしてご快諾頂き、総理大臣ご在任中にお書きいただいたものです。

新型コロナウイルス感染の第5波が終息しつつあります。しか
しながら第6波の到来も予測されます。抗体的、抗ウイルス薬、
ステロイドなどによる重症化の軽減も図られています。副反応
のより軽微なワクチンの開発と、小児へのワクチン接種につい
ても検討すべきと考えます。

(常務理事 五十嵐 隆)